

コシヒカリ生育情報 第4号

茎数が多いほ場は、出穂1か月前まで中干し継続

【6月29日生育状況】(管内3か所平均、平均田植日 5/17) ※6/30の指標値と比較

草丈(cm)		茎数(本/m ²)		葉数(葉)		葉色(SPAD)	
本年	指標値比	本年	指標値比	本年	指標値差	本年	指標値差
49	109%	581	121%	9.9	+0.2	40.5	+1.4

○指標値比較【草丈：やや長い 茎数：多い 葉数：並み 葉色：やや濃い】

○向こう1か月(7/1~7/30)は、気温は高く、降水量は平年並みか多い見込み(6/29新潟地方気象台発表)のため、過剰生育による倒伏が懸念される。

【今後の管理のポイント】

1 中干しは継続する

- (1) 田面が軟らかいなど中干しが不十分なほ場は、出穂の1か月前まで中干しを徹底する。
- (2) 茎数が多いほ場は、過剰生育を抑えるため、出穂1か月前まで中干しを継続する。
- (3) 田植えの遅いほ場であっても、出穂1か月前までに中干しを終了する。
- (4) 溝の再点検や再整備により、地表水の排除に努める。
- (5) 中干し終了後は浅水の間断かん水を行い、徐々に飽水管理へ移行する。

2 ケイ酸質資材を施用する

ケイ酸不足のほ場では、ケイ酸質資材を出穂40日前~1回目穂肥時期に施用し、高温による品質低下を防ぐ。

3 病害虫防除の徹底

- (1) 6月12日以降、いもち病に感染しやすい条件が出現しているため、いもち病の早期発見に努める。
- (2) 斑点米カメムシ類の発生を抑制するため、畦畔・農道の除草は雑草が結実しない間隔で行う。併せて、本田除草を徹底する。

<参考>出穂期予想と穂肥時期のめやす(6月29日現在)

○出穂期は平年より1日程度早まる予想。

○早生品種は、収量確保のため、1回目穂肥を遅れずに施用する。

品種名	田植日	幼穂形成期	出穂期予想	穂肥時期のめやす(カッコ内は出穂前日数)	
				1回目	2回目
こしいぶき	5/10~15	7/3	7/25	7/2 (23)	7/11 (14)
こがねもち	5/10~15	7/9	8/1	7/14~17 (18~15)	7/22 (10)
コシヒカリ	5/20	7/12	8/4	7/17~20 (18~15)	7/25 (10)

※必ず幼穂長を確認し、出穂前日数を判断する。

幼穂長と出穂前日数のめやす：0.1cm→24日前、0.2~0.4cm→20日前、0.5~1.0cm→18日前、4~6cm→12日前、8~11cm→10日前

農作業中の熱中症に注意しましょう。こまめな水分と塩分の補給や休憩が大切です。